

# 三輪山真長寺文化財保存会だより

令和8年9月1日発行 ●第61号 ●発行者：安藤征治 ●編集：三輪山真長寺文化財保存会　題字：真長寺元住職　三輪　醇證

## 住職就任にあたって

三輪山真長寺住職
（八事山興正寺住職）
西部法照



この度貴い仏縁をいただき、三輪山真長寺住職を拝命いたしました。

私と真長寺とのご縁は50年以上にもなろうかと思います。それは真長寺先住職様の時代であったと記憶しております。私が高野山より岐阜の法福寺に戻りその住職を引き継いだころから目にかけていただき何かとお導きをいただきましたことが、今でも記憶に残っています。その後、真長寺は三輪隆證師へと引き継がれ今日を迎えております。隆證師は学校教師を退職後は、ひたすら真長寺の護持運営に尽くしてこられました。中でも真長寺に伝わる貴重な文化財の保存管理こそがこの寺の重要な責務であることを痛感され、余生の全てをそれに捧げてこられました。その直向きな意思に学校関係者、地域関係者など、それを支える多くの方々が結集し、「真長寺文化財保存会」を立ち上げて、貴重な文化財の修理と保存活動に尽力してこられました。地域と有識者、そして大学等の専門家、行政等が噛み合ってこその一大成果であることは言うまでもありません。

ご存知の通り真長寺は、奈良時代創建とされる古刹であり、今日まで多くの寺宝、文化財、歴史資料等を残しています。長い歴史の間には社会の変動、環境、風雪など様々な難事も多くあったであろうことは、想像するに難くありませんが、中でも明治初年の廃仏毀釈、伝統文化破壊の大愚は、日本の歴史上においても、世界の歴史においても類例を見ない大惨事でありました。真長寺においても歴史文化遺産、仏教文化遺産、地域文化遺産等その多くを失ったことは誠に残念なことであります。

しかし、当時の真長寺関係者、心ある地域の方々による必死努力の甲斐あって今日に見る真長寺歴史文化遺産は護り継がれてきました。のみならず、数百年の歴史歳月を護り抜かれてきた多くの仏像、仏画等の修繕事業が、関係大学や専門機関の協力を得ながら推進されてきたことは、「真長寺文化財保存会」の役員・会員・関係者の皆様方の弛みない努力とお力添えの賜物と改めて深謝申し上げます。

次に、三輪前住職と住職ご一家・一族の方々におきましても真長寺護持の熱き想いを共有されて、陰に日向に協力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。ことに三輪前住職の奥様においては、真長寺に伝わる「徳川家朱印状」をはじめとする数百点に上る歴史古文書の多くを解読、出版された努力と能力は、窺い知る由もありません。斯様な歴史文化の原点における研究と努力の成果が、真長寺の歴史の厚みとなって、今後の社会と文化の向上に役立っていくものと考えております。

最後になりましたが、私自身は現在名古屋市にございます「八事山興正寺」の正住職を務めております。真長寺は兼務住職となりますので、興正寺の西山海良僧侶が院代として務めさせていただきます。何卒宜しくお願い申し上げます。

合掌



枯山水庭園（苔庭）の除草をしていただく皆さん